

中国少数民族の漢字系文字

立石謙次

The Sinicized Scripts of the Minority in China

TATEISHI Kenji

1. はじめに

現在、中華人民共和国には漢族を含む 56 の民族が公認されています。中国では漢族以外に認定された人びとを「少数民族」と呼んでいます。中国の少数民族の多くは、伝統的に独自の言語を保持してきました。そのうちのいくつかの民族は独自の文字を使用することもありました。この報告書では中国の少数民族の 1 つである「白族（ペー族）」が用いてきた「白文（ペー文）」を中心に、彼らが用いる文字（表記体系）の特徴や使用状況について紹介します。

2. 白族と白語

1) 白族

現在、白族の人口は約 195 万（2010）、そのうちの約 100 万人が雲南省西部の大理白族自治州（以下大理州と略称）に多く暮らしています¹⁾。

自称は「ペーニ」、「ペーヅ」、「ペーホ」などがあります。歴史的には、漢語（中国語）で民家とも呼ばれていました。民家の名称は、1949 年の中華人民共和国成立後にも使用されており、1956 年になり正式に「白族」の名称に改められました。

伝統的には農業や交易、大理盆地東側の洱海（じかい）という大きな湖（湖面面積、約 246km²）の沿岸では漁業も営まれています。彼らの生活習慣は、周辺にすむ漢族とほぼ同じです。ペー族と漢族とを分ける大きな指標が言葉です。彼らはよく自分たちと他者とを、その人物の出身にかかわらず「スアペー」（ペー語話者）か「スアハー」（漢語話者）かで、区別します。

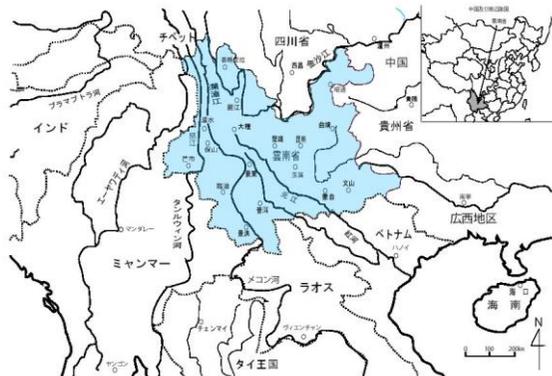


図 1 雲南省地図

2) 白語と白文

白族は白語（ペー語）と呼ばれる独自の言語をもっています。白族全人口 195 万人中、白語の話者人口は約 130 万人とされています。白語がどの言語に属しているかについては、いまだ確定していません。現状ではチベット・ビルマ語派に属する言語だというみかたが主流です。

白族及びその先祖は、基本的には自分たちの文字を持たず、文章は漢語を用いてきました。ただし一部で漢字を用い、白語を書き写す方法をもっていました。この表記方法は「白文（ペー文）」と呼ばれています。ただし白文は、白族の間に広く用いられている訳ではありません。現在でも白族の民間芸能の曲本（台本）や、宗教書などの限られた用途に、特定の職業の人たちの間でわずかながら用いられています。この漢字による白文は、1958 年以降に創られたローマ字白文と区別して、「老白文」「方塊白文」あるいは「古白文」と呼ばれています。

3. 研究の経緯と大本曲

1) 研究対象との出会い

本研究は 2010 年より始まりました。これまで歴史研究を専門としていた私は、当初大理州に現存する明清代(14 世紀後半～20 世紀初め)の白文で書かれた石碑の内容分析をおこなう予定でした。ただし実際に現地調査を始めてみると、これら白文碑を理解できる人はほとんどおらず、史料も極めて限られていることがわかりました。しかしその調査の過程で「大本曲」と呼ばれる白文の曲本（台本）を用いる民間芸能が大理盆地でおこなわれていることを知りました。

「大本曲」の存在を知った私は、すぐに大本曲の芸人の方を紹介してもらい、その場で研究対象を変更しました。それは大本曲で用いられるテキストは学術的な分析をおこなえるだけの十分な量、内容を備えていたためです。また現在でもこのテキストを使用して芸能がおこなわれているため聞き取りによる分析が可能であり、白文の社会的役割を十分に明らかにし得ると考えたためです。

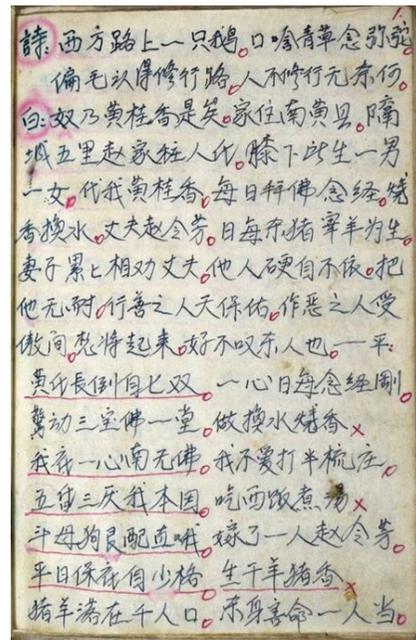


図2 大本曲『黄氏女对金剛经』曲本

2) 大本曲

大本曲は、歌い手と三絃（三味線）の伴奏の二人でおこないます。かつて中国でおこなわれた「曲芸」・「説唱」（かたりもの・うたいもの）の一種です。現在では蘇州の「評弾」などを除き、中国内地ではほとんど消滅してしまいました。白族の伝統的芸能である大本曲もまた、現在消滅の危機にあると言ってよいでしょう。大本曲とは、「大きな本子（テキスト）の曲」とい

う意味です。ひとつのテキストで最低でも 2~3 時間は歌われます。伝統的には何昼夜もかけて歌われることもあったそうです。伝統的な大本曲の演目は白族独自の内容のものは少なく、曲目の 8 割近くが中国の演劇などから題材がとられています。現存する最も古い曲本は、清・光緒年間(1875 - 1908)の写本であり、これ以前の大本曲の実在は確認できません。曲本は「詩」・「白」(せりふ)・「歌」より構成されます(図 2 参照)。この形式は中国の説唱芸能の台本や、民間宗教経典である宝巻と類似しています。このうち「詩」と「白」(せりふ)とは漢語(中国語)で記されます。一方、歌は漢語と白文を併用しています。白文には下線が引かれています。歌詞の様式は、基本的に最初の 3 行が 7 文字ずつ、最後の一行が 5 文字の合計 5 行で一段が構成されています。

3) 白 文

大本曲の曲本で用いられる白文は漢字系文字であり、日本語の表記にみられる訓読み・音読みに近い用法などがみられます。徐琳らは日本語の漢字の用法を参考にして、白文の用法を以下のように区分しています(表 1 左参照)²⁾。

1. 音読漢字: 漢字の音を利用して白語の意味を表現する。
2. 訓読漢字: 漢字の意味に沿って、白語の音で読む。
3. 自造新字: 漢字の構成体系を参考に新たに文字を創る。主に文字の片側半分の意味を表し、もう半分で音を表すという形声の方法。
4. 漢語借詞: 直接漢語を使用して借詞とする。白文碑(後述)では単音節の単語だけでなく、熟語すら漢語が借用される。

上述のように、徐琳は日本語での漢字の用法を参考に「音読」「訓読」などの用語を用い区分しました³⁾。しかしこの用語は日本語の用法そのものではありませんでした。徐琳が区分した方法に日本語の漢字の用法を当てはめてみると、おおよそ「表 1」のようになると思われます。

白 文	a.音読漢字	a-1.借音〔音仮名〕 a-2.借訓音〔訓仮名〕
	b.訓読漢字	b-1.借義〔訓読み〕 b-2.借音・借義〔音読み〕
	c.自造新字	c.造字〔国字〕
	d.漢語借詞	d.借音・借義〔外来語〕

表 1 白文用法の分類 ([] 内は日本語表記に近い区分)

このような分類については異論もあり、いまだ検討の余地があります。このため、ここでは白文には日本語表記の訓読みなどに類似する複雑な用法がみられることだけを指摘しておきます。

4) 今後の展望

現在、私は「漢字系文字としての白文研究」をおこなっています。具体的には白文で書かれている大本曲曲本の内容分析及び語彙と用例を収集しています。私はこれら情報を蓄積するこ

とにより、以下の方面へ現在の白文研究を発展させることができると期待しています。それは①漢語からの翻訳文学・文芸としての少数民族文学研究、そして②中国の少数民族が漢字を含めた漢文化をいかに受容し、これが民族の形成にどのように関わってきたかという中国民族史上の研究です。とにかく白文については研究の蓄積も少なく、今後も地道に資料分析の成果を積み上げていくほかはなさそうです。

4. 授業への発展

最後に私の研究をどのように授業へ反映させているかを説明します。すでに述べたように私の研究対象は中国少数民族の文化です。しかし日本の学生には、中国西南地方に暮らす少数民族の事例は、自分たちにとって遠い地域の出来事に感じるかもしれません。そこで私の授業では漢字系文字の1つである日本語表記の成り立ちや特徴を、白文というもう一つの漢字系文字から説明しています。また私は、雲南省の昆明で4年間を過ごし、同地の雲南大学で2000年に修士課程を修了しました。修士課程修了後もほぼ毎年、調査の為に雲南地方を訪れています(残念ながら2020年度はコロナウイルス流行のため断念せざるを得ませんでした)。2019年度は、アジア学科で開講している「アジア海外研修」の授業で、雲南大学を訪問しました。そして授業の一環として同大学外国語学科の学生とも交流活動をおこないました。交流会はとても盛況で本学学生だけでなく、雲南大学の先生方・学生にも喜ばれました。

目下のところ直接現地へ赴いての交流活動は難しいですが、今後とも別の形でも授業として雲南大学との交流を続けていきたいと考えています。

[付記] 本稿は、2020年11月25日(水)にオンラインで開催された2020年度第2回(通算第9回)文化社会学部研究交流会で行った報告の記録である。

註

¹ 王鋒編著(2014)『白語大理方言基礎教程』、中央民族大学出版社、p.5。

² 徐琳・趙衍蓀編著(1984)『白語簡誌』、民族出版社、pp.129-130。

³ 徐琳(2002)「關於白族文字」、趙寅松主編、『白族文化研究 2001』、民族出版社、p.276。